

ラウンドテーブル『活動型授業における教師の介入－内容重視の教育でいかに言語指導を行うか－』（発題者：川崎加奈子・近藤有美）
～ 発題に対するテーブルからの提言 ～

発題の後、6つのグループに分かれて討議をお願いし、今後の私ども発題者の実践に大きな示唆となる様々なご提言をいただきました。この場をお借りして、ご意見をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。尚、グループ名「A」～「F」は便宜上のもので、掲載は順不同です。

《グループAからの提言》

評価できる点	問題点・批判点
<p>【意識化から行動へ移した】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の授業方法を思い切って変えた ・学生主体の活動による授業ができた ・時間の調整により、週2コマの授業ができた ・問題点を受け止めて改善策を探った＝教師の悩みを問題提起した <p>【適切な課題を与えた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の声に耳を傾けた ・教師による介入（日本語の添削、イントネーションのアドバイス）により、学生が安心して発表に臨めたのでは ・漢字にルビを振るなど、新たな課題を課した ・ルビを意識的に振ることで、学生は視覚的に自分の読みの特徴を修正できた <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">学生の評価が良くなった</p>	<p>【目的・目標の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学における日本語授業の目標とは何かが明確になっていないために、教師に迷いが生じたのではないか ・2科目の目的が同一でよかったのか？ ・授業の目的が、「メディアリテラシー・内容」から文法などに変化している <p>【教師主導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の介入が増えている ・発音アドバイスは教師がいきなり行ったのか。学生の気持ちが優先されるべきではないか。 ・発表原稿の完成度にこだわって、添削が早すぎるのではないか？ <p>【学習者の受け止め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表時の自由度が減ったことを学生はどのように感じているのか検証が必要 ・「内容の見当が浅くなったのは、言語面に時間を取られたから」なのか。時間をとれば解決する問題なのか疑問。 ・内容重視にこだわりすぎ ・日本語文法向上の学生の要請に応えられなかった
<p>提案</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師自身の持つ学習観の問い直しが必要 2. 学習者の受け止めを精査し、授業を見なおす必要がある

《グループBからの提言》

評価できる点	問題点・批判点
<p>【常に改善を加えている点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4学期を通じて同じ取り組みを続け改良を加えている点 ・ 学生の感想や取り組みの姿勢などに常に目を向け取り入れていること ・ 内容重視か言語重視か、常にバランスを考えていること ・ 「デザイン → 実践 → 振り返り → 改善」というプロセスを続け、よりよい授業を目指している <p>【実生活に結び付けられた点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生の生活と学習を切り離さないで、日本で生きていくことと言葉の学びをつなげた実践だった <p>【日本語向上のために指導を取り入れた点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表記、原稿内容、発音の指導を入れたこと ・ 日本語の授業であるので、2011 秋の介入はやはり入れるべき <p>【学習者の意識化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者の気づきを促すことができた ・ 学習者の課題が明確になり、意識を向けることができた <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループでの作業により、自律性が高まり、ピアラーニングを促すことができた ・ 教師側からの提案に基づき、学習者がより良い学習スタイルを構築できた ・ 教師が内省している ・ インタビューなど、教室の外で学生が日本語を使って行動を起こしている ・ 学生が表現したいことを教師が「引き出す」ことができています 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いきなり言語重視から内容重視への移行ではない方法の模索が必要なのでは ～2年目からは経験者がグループ活動をリードしていたという話から～ ・ PowerPoint に漢字ルビを振る以外に、言語面に焦点を当てる方法はなかったのだろうか ・ ルビ振り等に時間をとられる ・ 教師が個別に指導する負担が増えるのでは？ ・ この授業で、レベル差のある学生それぞれが日本語の上達を実感できるのか？
<p>提案</p>	<p>授業内で漢字のルビを振るといった言語面に焦点を当てることを目的とした作業を少なくする工夫をする。例えば、宿題にして、互いに添削した原稿を持ち寄るなど。</p>

《グループCからの提言》

評価できる点	問題点・批判点
<p>【教師の内省を促した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年間で振り返りの時間を設けてそれを踏まえ改善をしていること ・ 教師の話し合いが行われ、次のステップを考えていること ・ 教師間の話し合い・内省 <p>【学習者への気づきの促し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の間違いや弱点に気付いていなかった上位学生の“気づき”に役立った点 ・ 内容だけに偏らず、学生の正確さに関するケアも行った点 <p>【トピックの選択】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容、学習内容を学べるようなカリキュラムになっていること ・ 学生が勉強している内容と現実社会が結びついた活動をしている点 <p>・ 「成長期」の介入の具体的な方略が示されていた点</p>	<p>【学習目標と活動形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習目標ありきのはずだと思うが、<u>方法論</u>が先になっているような気がする。活動のための活動か？ ・ 次第に教師の介入が増えて行っているが、果たしてそこに教師の思い込みはなかったのか ・ 学習目標が「自己表現」など抽象的すぎる <p>【内容面の介入の質と量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見守るだけで内容に対する知識は深まるのか？ ・ 内容面での指導はどの程度行ったのか不明 ・ 思考を深めるための介入は？ ・ 学生同士の関わり合いや学びに対する仕掛けは？ ・ ファシリテーターとして協働をうまくやるための教師の介入は？ <p>【トピックの選択】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「長崎くんち」「防災」など、トピックが限定され過ぎている。使用される語彙が学習者にとって必要なものなのか？ <p>【日本語の正確さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語の指導のプロセスはどうなっているのか。添削した物を見せるという結果だけか ・ 正確さ＝？ 漢字のルビを振ることで改善される以外の点は？ ・ 内容重視にこだわりすぎ ・ 日本語文法向上の学生の要請に応えられなかった
<p>今日の発表を聞いて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ討議にも“介入”があって、とても話しやすかった ・ 発表者の葛藤が時系列で説明され、わかりやすかった ・ 「正しい介入は存在しない」「むしろプロセス」というのは、ちょっと悲しい・・・

《グループDからの提言》

評価できる点	問題点・批判点
<p>【介入の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現実味のある内容をテーマにしたところ ・ 教師と学生の共有（共通認識、体験） ・ グループで一つの作業を促すという介入 ・ 「なぜ?」「どうして?」など学生の思考を深める介入 ・ グループ討論に介入する際、通常はどうしても上からものを言ってしまうが、グループの一員として発言するという姿勢だった ・ 教室外活動を行った点 ・ アポ取りから学習者にさせた <p>【言語面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表原稿などのチェック、イントネーションやアクセントの確認をした ・ 言語面でポイントを具体的に絞った指示を出した（まず、漢字のルビ、次にアクセントなど） ・ 原稿の全てにルビを打たせたことで、長音等に目が向けられ発音が向上できた <p>【教師の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師同士のディスカッションを深めていったことにより、問題点が改善に向けられていったこと ・ 教師一人で悩み続けるのではなく、話し合いが続けて行われたところ（通常はなかなかチャンスがない） ・ “2科目合同の授業”という、ある意味大胆な決断 	<p>【学習者の心理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生たちの不満（普通の文法の授業を受けたい）への対処は？ <p>【授業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の目的が「思考を発信すること」とあるが、「発信」とは何か？ ・ 発表時の発話の自由度が減るのは、問題なのか？ <p>【言語面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字にルビをふる作業の時間は負担だったのでは？ ・ 漢字の読み方こそ単純作業。もっと良い表現や語彙の学びを求める学生がいたのでは？ ・ 漢字の読みや発音の矯正はなされていたが、文法についてはどうだったのか？ <ul style="list-style-type: none"> ・ インタビューはテープにとる？（教師と学生に共通認識がない） ・ この実践は学部3年生対象の活動だが、初中級レベルでどの程度応用できるか？
<p>改善案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルビの提示方法を改善できないか ・ 授業の目的を深める+明確にする → 学習者に提示（学習者と共に確認する） ・ インタビューをテープに録る

《グループEからの提言》

評価できる点	問題点・批判点
<p>【学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生同士の学び ・ 学外でのふれあい ・ 学習意欲の向上 <p>【教師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい取り組み ・ 教師間の連携 ・ 記録の丁寧さ <p>→ 反省や介入方法の変更につながっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を実生活と切り離さないように心がけている ・ 学生より教師の方が情報量が少なく、質問が自然 	<p>～教師の迷い～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容重視 vs 言語重視で迷っている ・ 学生にも影響しているのでは？ ・ 授業の意図や目的があいまい <p>学習者の様子や反応があまり見えてこない</p>
<p>提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム全体の中で科目を位置付ける ・ 教師が自信を持って授業の意図・目的を設定し、学生に伝える・学生主体の機会を増やす ・ 原稿を、書かずに練習を増やす 	

《グループFからの提言》

評価できる点	問題点・批判点
<p>①トピック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活に密着したトピック ・ トピックを柔軟に変えた (状況に合わせて震災のような実際の出来事に対応) <p>・ 思い切った活動テーマでインパクト有</p> <p>② 実践 → 討議・反省 → 改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二人の担当教師が討議を重ねながら授業改善を行ったこと ・ 学生からのフィードバック ・ 介入のプラス点やマイナス点を確認している ・ 反省を翌年の授業に生かした <p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的なタスク+教師からの発問で改善 ・ 学生本人にルビを打たせた 	<p>①授業の目的（ゴール）がよくわからない</p> <p>②活動テーマに勇気が要る (微妙な or 深刻な問題が存在する)</p> <p>③内容重視か言語重視かバランスのとり方が難しい。また、ブレ、迷いがある。(言語能力を身につけさせたいのか、グループワークの仕方を身につけさせたいのか、どちらが中心?)</p>